

# 水稻の生育状況（8月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2025年8月27日

## 1 生育状況

本年の出穂期は、平年値（2015～2024年までの過去10年平均）と比べて、4～5日早くなりました（表1）。

表1 神奈川県農業技術センター（平塚市）における出穂期

作期	品種名	本年	平年	平年との差
6月上旬植	はるみ	8月5日	8月10日	5日早い
	キヌヒカリ	8月3日	8月8日	5日早い
	てんこもり*	8月9日	8月14日	5日早い
6月中旬植	はるみ	8月11日	8月15日	4日早い
	キヌヒカリ	8月9日	8月14日	5日早い
	てんこもり*	8月15日	8月19日	4日早い

\*2018～2024年までの過去7年平均

## 2 栽培上の留意点

気象庁が8月21日に発表した1か月予報（8/23-9/22）では、気温は「高い」、降水量は「平年並みか少ない」、日照時間は「多い」の見込みとなっています。

今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

### （1）水管理

本年は出穂期以降も高温が続いているため、粒の充実不足や白未熟粒、胴割粒の発生が多くなる可能性があります。落水までは「かけ流しかん水」を行いましょ。かけ流しが困難な地域では水田内で温まった水が滞留しないように「間断かん水」を行いましょ。間断かん水は、地面を固くして倒伏防止の効果も期待できます。

早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長するため可能な限り落水時期を遅くしましょ。

### （2）成熟期（収穫時期）

成熟期は、出穂期が早かったこと、出穂期以降も高温傾向であること、今後も高温が見込まれることから、平年より早くなると予想されます。出穂期以降の日平均気温の積算温度から予想される成熟期は、表2のとおりです。本年はいつもよりも収穫作業を早めることが必要です。

ただし、収穫時期は、今後の気温の推移、黄化籾割合、籾水分、倒伏程度等から総合的に判断してください。収穫適期の黄化籾割合の目安は約85%です。

刈り遅れは、穂発芽や胴割粒等の発生を助長し、著しい品質低下につながりますので、必ず適期に収穫します。

表2 神奈川県農業技術センター（平塚市）における成熟期（2015～2024年までの過去10年平均）と本年の登熟積算温度到達予測日

作期	品種名	平年 (過去10年平均)			登熟積算温度到達予測日** (本年の成熟期予想)		
		登熟日数	登熟積算温度	成熟期	1000度	1050度	1100度
6月上旬植	はるみ	38日	1000度	9月17日	9月9日	9月11日	9月13日
	キヌヒカリ	39日	1020度	9月16日	9月7日	9月9日	9月11日
	てんこもり*	39日	1020度	9月22日	9月14日	9月17日	9月19日
6月中旬植	はるみ	39日	1020度	9月24日	9月17日	9月19日	9月21日
	キヌヒカリ	39日	1020度	9月24日	9月14日	9月17日	9月19日
	てんこもり*	42日	1060度	9月30日	9月22日	9月24日	9月26日

\*2018～2024年までの過去7年平均との対比

\*\*アメダス海老名の平均気温（8月26日までは本年値、8月27日以降は平年値）で計算。

### (3) 斑点米カメムシ類

本年も県内各地で斑点米カメムシ類（写真1）が見られており、斑点米（写真2）の発生が懸念されます。畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。

イネ科雑草が出穂しないようには場周辺の除草を行いましょう。また、イネ科雑草が出穂している場合は本田への移動を防ぐために、収穫の2週間前以降に除草を行いましょう。

防除対策については、病虫害防除部の令和7年度防除情報(病虫害情報号外第6号)斑点米カメムシ類の防除を参照してください。



[https://www.pref.kanagawa.jp/documents/119680/25-6\\_ricebugs\\_20250730.pdf](https://www.pref.kanagawa.jp/documents/119680/25-6_ricebugs_20250730.pdf)



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリカスミカメ



イネカメムシ



斑点米（写真2）

斑点米カメムシ類（写真1）

#### (4) 籾の褐変

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下で、もみ枯細菌病や内穎褐変病等による褐変症状が発生しやすくなります。本年は出穂期前後にあたる8月上旬から中旬にかけて強風及び高温であり、特に8月10日が強風に加えて大雨であったため、全体的に籾の褐変が目立っています。

褐変籾は色粒等になるので玄米の品質を下げないように、丁寧に調製し、未熟粒や被害粒を取り除くようにしてください。



内穎褐変病 (写真3)

#### (5) ナガエツルノゲイトウ

ナガエツルノゲイトウの発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られた時は、最寄りのJAまたは農業技術センターに連絡してください。

なお、ナガエツルノゲイトウの防除は農業技術センターホームページに掲載している世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を!を参照してください (写真4)。

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/88221/r6nagaeboujyo.pdf>



ナガエツルノゲイトウ (写真4)

#### (6) 収穫作業における異品種・異物混入防止対策

- ・ 収穫前に、雑草種子混入を防ぐため、クサネム等の雑草を除去しましょう (写真5)。
- ・ 倒伏や刈り遅れた場合、収穫時に株が抜けて小石等の異物が混入しやすくなるので、高い位置で刈り取ってください。
- ・ コンバインや乾燥機等は、品種が替わるごとに、エアーコンプレッサー等を使って清掃を徹底してください。



クサネム (写真5)

#### (7) 農作業安全 (収穫・乾燥時の機械作業)

- ・ コンバイン、乾燥機等の機械は、事前に必ず点検及び整備を行い、計画的な作業に努めます。合わせて、コンバインの刈刃は切れるように整備しましょう。
- ・ 収穫作業を始める前に、コンバインの転倒・転落を防ぐため、事前に路肩や畦畔の状態を確認してください。
- ・ 斑点米カメムシ類対策で除草を控えていた方は収穫 2 週間前から除草が可能です。収穫作業に向けて畦畔等の環境整備を行きましょう。
- ・ コンバインの積み下ろし時や勾配が大きい水田へ出入りする場合は、充分強度の高いブリッジ等を用いて低速で行いましょう。
- ・ コンバイン作業中に、ワラの詰まりやその他異常が発生した場合は、必ずエンジンを止めてから対処してください。

## (8) 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を避けて作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を行い、帽子の着用や通気性が良く速乾性のある服装を心がけましょう。

なお、農作業を行う際はなるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。単独で作業を行う場合には、何かあった際でもすぐに連絡ができるようにしましょう。

## (9) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。

**台風などの大雨時の用排水路や水田等の見回りは大変危険です。** 気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。

### ア 事前防止対策

- ・用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・可能な地域では、深水管理を行い、急性萎ちょうや倒伏防止に備えます。

### イ 事後対策

- ・損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の「令和7年度病害虫発生予察情報」に注意します。

令和7年度病害虫発生予察情報

[https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2025\\_4\\_01.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2025_4_01.html)



※この他の台風対策は、農水産部農業振興課が発信している「農業気象災害の技術対策マニュアル 4 台風対策」を参照してください。

農業気象災害の技術対策マニュアル

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f6k/cnt/f531408/index.html>



問合せ先

神奈川県農業技術センター

普及指導部 作物加工課

TEL : 0463-58-0333 内線 381~384